

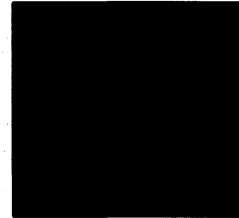
(様式第9)

福井大経企第 113号
平成21年 9月29日

厚生労働大臣

殿

福井大学長
福田



福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	94 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	163人	149人	312.0人	看護業務補助	42人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	7人	12.0人	理学療法士	10人	臨床検査技師	29人
薬剤師	28人	0人	28.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	7人	2人	8.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	440人	59人	481.0人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	1人	その他の技術員	7人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	192人
管理栄養士	5人	0人	5.0人	診療放射線技師	24人	その他の職員	42人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。
 それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	472.0 人	4.5 人	476.5 人
1日当たり平均外来患者数	1,088.7 人	37.6 人	1,126.4 人
1日当たり平均調剤数	入院：463.9 剤 外来：71.4 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	1人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齲蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第VII因子欠乏症、先天性アンチトロンビンIII欠乏症、先天性ヘパリンコファクターII欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	110人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	3人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有・無	0人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・無	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	0人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・無	8人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・無	0人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・無	5人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(ステューブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・無	0人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・無	0人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・無	2人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・無	0人
神経芽腫のRNA診断	有・無	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	0人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・無	0人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室索処理骨移植	有・無	2人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・無	0人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・無	0人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・無	0人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・無	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードⅤの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・無	0人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植 (HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術 (頸椎椎間板ヘルニア (画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のも (後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
ケラチン病の遺伝子診断 (水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術 (双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例 (妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法 (肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断 (ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法 (四肢の骨折 (治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの (開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 (ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 (骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性 (欠損性又は感染性偽関節に係るもの)に限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時 (初回又は再置換術時)に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術 (難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価 (骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
膀胱水圧拡張術 (間質性膀胱炎に係るもの)に限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	6人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法 (歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術 (人工股関節のたるみに係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下直腸固定術 (直腸脱に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
骨移動術による関節温存型再建 (骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション (原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法 (腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍 (食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小白歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	9人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	29人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIH)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
橋本脳症の血清診断	有・ <input type="radio"/> 無	197人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	13人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	5人
・多発性硬化症	24人	・ウェゲナー肉芽腫症	0人
・重症筋無力症	20人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	12人
・全身性エリテマトーデス	44人	・多系統萎縮症	12人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	10人	・膿疱性乾癬	3人
・サルコイドーシス	35人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・筋萎縮性側索硬化症	6人	・原発性胆汁性肝硬変	6人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	36人	・重症急性膵炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	24人	・特発性大腿骨頭壊死症	25人
・結節性動脈周囲炎	11人	・混合性結合組織病	16人
・潰瘍性大腸炎	27人	・原発性免疫不全症候群	1人
・大動脈炎症候群	12人	・特発性間質性肺炎	15人
・ピュルガー病	6人	・網膜色素変性症	19人
・天疱瘡	9人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	13人	・原発性肺高血圧症	1人
・クローン病	18人	・神経線維腫症	5人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	2人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	65人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	5人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	5人
・後縦靭帯骨化症	57人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門：年に7回程度	臨床検査部門：年に3回	
剖検の状況	剖検症例数	44例	剖検率 17.3%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
マルチ薬剤耐性による難治性白血病へのゲノム薬理学に基づくテララーマイト治療戦略	上田 孝典	内科学(1)	1,000	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
新規グルココルチコイド耐性遺伝子GST M1のアポトーシス抑制機構の解明	細野 奈穂子	血液・腫瘍内科	1,340	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
女性ホルモンによる胃癌抑制機構の解析	大谷 昌弘	内科学(2)	1,000	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
前庭部胃炎と体部胃炎の差を規定するヘリコバクター・ピロリ菌および宿主因子の同定	伊藤 義幸	消化器内科	1,000	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
不器用さ・発達性協調運動障害のバイオメカニクス・ニューロイメージング研究	中井 昭夫	小児科学	1,800	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
アルギニン代謝関連分子(NO、ADMA)による生体機能修飾についての統合的研究	塚原 宏一	小児科	900	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
末梢血線維細胞の機能解析による気道リモデリングの評価法の確立	大嶋 勇成	小児科	1,300	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
高齢者の認知リハビリテーションによる脳機能可塑性のfunctional MRI研究	小坂 浩隆	神経科精神科	700	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
高齢者の認知機能障害の早期診断に関する多面的研究:形態・生理・機能学的アプローチ	高橋 哲也	神経科精神科	2,600	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
3T高磁場MR撮像装置による非侵襲的血流代謝機能画像の開発および臨床研究	木村 浩彦	放射線医学	500	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
MRIによる肺の構造解析	植松 秀昌	放射線医学	200	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
放射線療法における腫瘍内血管系からみた治療効果増強のメカニズム	塩浦 宏樹	放射線科	700	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
機能画像法による脳血管障害の病態解明とその予防法の開発に関する総合研究	土田 龍郎	放射線科	5,900	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
腫瘍内投与磁性体をRF誘導加熱することで得られる抗腫瘍効果についての実験的研究	片山 寛次	外科学(1)	700	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
新規血管新生因子の大腸癌浸潤・転移への関与解明	山口 明夫	消化器外科	1,200	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
小口径人工血管の長期閉存性向上をめざした遺伝子治療法の開発	山田 就久	外科学(2)	1,100	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
血小板由来内皮細胞成長因子を用いた動脈硬化性疾患に対する治療の研究	高森 督	外科学(2)	900	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
大動脈瘤形成過程におけるイコサペント酸による抑制効果の研究	田中 哲文	心臓血管外科	427	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
脊髄損傷再生医療における神経栄養因子を用いた内・外因性神経幹細胞の分化制御	中嶋 秀明	整形外科	1,200	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
変性椎間板の組織再生における基礎的研究	宮崎 剛	整形外科・脊椎外科	2,000	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
逆行性軸索輸送を利用した細胞膜透過性ペプチドによる難治性疼痛治療薬の開発	廣瀬 宗孝	麻酔・蘇生学	2,900	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
ウェーブレットバイコヒーレンス法を用いた視床皮質再帰性回路の過渡的同期特性解明	林 和子	麻酔科蘇生科	2,100	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
浮遊卵巣癌細胞の転移能獲得に対するラミニン分子の役割—新たな分子治療開発に向けて	吉田 好雄	産科婦人科学	1,300	⑤ 文部科学省科学研究費補助金
超低出生体重児の消化管成熟に向けた治療戦略:肺サーファクタントを用いた動物実験	西島 浩二	産科婦人科学	1,100	⑤ 文部科学省科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
体外受精の着床率向上に向けた卵子機能マーカーの確立を目指して	折坂 誠	産科婦人科	1,600	補委 文部科学省科学研究費補助金
メタボリック症候群候補遺伝子の変異・多型は下部尿路症(LUTS)の原因か	横山 修	泌尿器科学	9,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
過活動膀胱における脳由来ニューロステロイドの関与について	秋野 裕信	泌尿器科学	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
microRNAの発現解析による前立腺癌診断・治療への応用	伊藤 秀明	泌尿器科学	2,500	補委 文部科学省科学研究費補助金
先天性腎尿路異常発生の新たなメカニズム:分化制御因子Id2欠損マウスの解析	青木 芳隆	泌尿器科学	2,500	補委 文部科学省科学研究費補助金
モノクローナル抗体RM2を用いたPET用前立腺癌イメージング薬剤の開発	大山 伸幸	泌尿器科	1,500	補委 文部科学省科学研究費補助金
心理ストレス反応に起因する中枢性機能障害におけるメラノコルチン系の役割	三輪 吉司	泌尿器科	1,600	補委 文部科学省科学研究費補助金
前立腺癌に対するアンドロゲンレセプターを標的としたPET画像診断法の開発	金田 大生	泌尿器科	1,400	補委 文部科学省科学研究費補助金
水晶体におけるマイクロRNAの同定と機能解析および白内障関連遺伝子の解明	久保 江理	眼科学	1,700	補委 文部科学省科学研究費補助金
スギ花粉症に対する舌下免疫療法施行患者血清中の網羅的蛋白解析から得た新薬開発	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	9,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
鼓索神経再建後の味覚機能と再生首状乳頭・再生味覚神経終末の超微細構造に関する研究	齋藤 武久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	500	補委 文部科学省科学研究費補助金
IgA腎症患者の口蓋扁桃におけるBcl-2蛋白の過剰発現についての検討	須長 寛	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
内分泌攪乱物質のアレルギー性鼻炎への影響	山本 英之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,900	補委 文部科学省科学研究費補助金
functional MRI を利用した顔面表情筋運動障害の病態解明に関する研究	呉 明美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,600	補委 文部科学省科学研究費補助金
糖尿病性腎症モデルマウスにおける慢性低酸素関連性の新規進行因子の研究	吉田 治義	腎臓病態内科学	1,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
進行性腎障害における脂質転送蛋白と脂質応答性転写因子の抗炎症・抗線維化作用の解析	木村 秀樹	検査医学	1,500	補委 文部科学省科学研究費補助金
腎不全における血管新生因子を用いた遺伝子治療の可能性	木村 哲也	救急医学	900	補委 文部科学省科学研究費補助金
強オピオイド製剤の薬効薬理の個体差に関する薬物動態学的検討	渡辺 享平	薬剤部	580	補委 文部科学省科学研究費補助金
小児科領域における一酸化炭素ヘモグロビン・メトヘモグロビンの臨床生化学的意義	塚原 宏一	小児科	500	補委 (財)日本腎臓財団
母乳中の生理活性因子の生物学的・治療学的意義	塚原 宏一	小児科	1,000	補委 (財)総合健康推進財団
糖尿病性腎症における組織発現の特性調査に関する研究 糖尿病合併症に対する薬物療法の個別化に関する臨床評価研究	此下 忠志	内科学(3)	4,000	補委 (独)医薬基盤研究所
インターフェロンアルファを誘導する免疫刺激オリゴヌクレオチド(TLR9リガンド)の医薬用途開発	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,000	補委 (独)科学技術振興機構
チタン繊維による人工肋骨の再生	佐々木正人	呼吸器外科	2,000	補委 (独)科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト滋賀
熱滅菌型空気清浄化装置の実用化に向けた実証実験	岩崎 博道	内科学(1)	2,000	補委 (独)科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト滋賀

計 24 件

合計 48 件

(様式第11)

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia&Lymphoma.49(4):809-814.2008,4.	Pharmacokinetic self-potential of idarubicin by induction of anthracycline carbonyl reducing enzymes	上田 孝典	内科学(1)
日本輸血細胞治療学会誌.54(4):497-502.2008,4.	原発性アミロイドーシスに対する自己末梢血幹細胞移植併用melphalan大量療法	上田 孝典	内科学(1)
Mol Pharmacol.74:82-91.2008,4.	Carmustine-resistant cancer cells are sensitized to temozolomide due to enhanced mismatch repair during the development of carmustine resistance	山内 高弘	血液・腫瘍内科
Circ J.72(5):764-769.2008,5.	Comparative effects of amlodipine monotherapy and combination therapy with betaxolol on cardiac autonomic nervous activity and health-related quality of life in patients with poorly controlled hypertension	宇随 弘泰	循環器内科
Microbiol Immunol.52(6):305-309.2008,6.	Survey of the vectorial competence of ticks in an endemic area of spotted fever group rickettsioses in Fukui Prefecture	岩崎 博道	内科学(1)
Int J Cardiol.126(6):366-373.2008,6.	Relationship between impaired microvascular function in the non-infarct-related area and early left ventricular remodeling in patients with myocardial infarction	上田 孝典	内科学(1)
Int J Cardiol.126(6):316-321.2008,6.	Accumulation of risk factors enhances the prothrombotic state in atrial fibrillation	李 鍾大	循環器内科
Nucl Med Commun.29(8):679-685.2008,8.	Simple quantification of myocardial perfusion by pixel-by-pixel graphical analysis using carbon-11 acetate: comparison of the K-complexes of carbon-11 acetate and nitrogen-13 ammonia	中野 顯	内科学(1)
Cancer Sci.99(9):1778-1784.2008,9.	Multiple inflammatory cytokine-productive ThyL-6 cell line established from a patient with thymic carcinoma	高木 和貴	血液・腫瘍内科
Clin Cancer Res.14(20):6449-6455.2008,10.	Von Hippel-Lindau-Coupled and Transcription-Coupled Nucleotide Excision Repair-Dependent Degradation of RNA Polymerase II in Response to Trabectedin	高木 和貴	血液・腫瘍内科
Cancer Sci.99(11):2268-2273.2008,11.	Binding of monosodium urate crystals with idiotype protein efficiently promote dendritic cells to induce cytotoxic T cells	上田 孝典	内科学(1)
Oncol Rep.19(6):1545-1549.2008,6.	Impact of mitochondrial DNA on hypoxic radiation sensitivity in human fibroblast cells and osteosarcoma cell lines	米田 誠	内科学(2)
Clin Neurol Neurosurg.110(5):480-483.2008,5.	Transient subacute cerebellar ataxia in a patient with Lambert-Eaton myasthenic syndrome -after intracranial surgery	米田 誠	内科学(2)
Brain Nerve.60(5):559-565.2008,5.	Creutzfeld-Jakob病と類似の臨床経過を示した、Basedow病を伴った橋本脳症の1例	米田 誠	内科学(2)
Infect Immun.76(12):5834-5842.2008,9.	1)CTLA-4 blockade abrogates protection by regulatory T cells in a mouse model of microbially-induced innate immune-driven colitis	大谷 昌弘	内科学(2)
INTERNAL MEDICINE.48(4):241-243.2009,2.	Acute Encephalomyelitis Associated with Acute Viral Hepatitis Type B	栗山 勝	内科学(2)
Am J Physiol-Endoc M.294(6):E1109-E1118.2008,6.	Cardiac overexpression of hormone-sensitive lipase inhibits myocardial steatosis and fibrosis in streptozotocin diabetic mice	鈴木 仁弥	内科学(3)
Biochem Bioph Res Co.368(3):716-722.2008,4.	Glucose deprivation accelerates VLDL receptor-mediated TG-rich lipoprotein uptake by AMPK activation in skeletal muscle cells	高橋 真夫	内分泌・代謝内科
Ann Nucl Med.22(4):335-338.2008,5.	FDG positron emission tomography imaging of drug-induced pneumonitis	森川 美羽	呼吸器内科
J Steroid Biochem.111:29-36.2008,7.	Synergy of aldosterone and high salt induces vascular smooth muscle hypertrophy through up-regulation of NOX1	宮森 勇	内科学(3)
痛風と核酸代謝.32(1):71-72.2008,7.	メタボリックシンドロームにおける高尿酸血症・尿中尿酸排泄率とレニン-アンジオテンシン系	此下 忠志	内科学(3)
Lung Cancer.61(2):227-234.2008,8.	Multi-arterial infusion chemotherapy for non-small cell lung carcinoma-significance of detecting feeding arteries and tumor staining.	中西正教	呼吸器内科
J Nucl Med.49(10):1606-1612.2008,10.	Evaluation of dual-time point 18F-FDG PET imaging for staging in patients with lung cancer	上坂太祐	呼吸器内科
Eur J Radiol.22.2009,1.	Utility of high-resolution computed tomography for predicting risk of sputum smear-negative pulmonary tuberculosis	中西正教	呼吸器内科
J Nucl Med.50(1):81-87.2009,1.	The Effectiveness of 18F-FDG PET/CT combined with STIR MRI for diagnosing nodal involvement in the thorax	森川 美羽	呼吸器内科

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Resp Res.6(10):17.2009.3.	Hypoxia regulates human lung fibroblast proliferation via p53-dependent and -independent pathways	水野 史朗	呼吸器内科
Review of Scientific Instruments.79(6):066106.2008.6.	Technique for Designing and Evaluating Probe-caps used in Optical Topography of infants using a real head model based on 3-D MRI images	中井 昭夫	小児科学
Atherosclerosis.198(2):434-440.2008.6.	Fluctuation of lipoprotein metabolism linked with bile acid-activated liver nuclear receptors in Alagille syndrome	塚原 宏一	小児科
Pediatr Res.64(6):667-672.2008.6.	Development of a new enzymatic diagnosis method for very-long-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency by detecting 2-hexadecenoyl-CoA production and its application in tandem mass spectrometry-based selective screening and newborn screening in Japan	畑 郁江	小児科学
日本小児アレルギー学会誌.22(3):369-378.2008.8.	外来での簡単な問診票とチェック表を導入することによる小児気管支喘息ガイドラインに沿った治療推進の効果	大嶋 勇成	小児科
日本周産期新生児医学会雑誌.44(4):1180-1185.2008.12.	早期新生児のDIC診断基準:多施設共同研究による京都大学案の検討	塚原 宏一	小児科
日本マス・スクリーニング学会誌.18(3):41-46.2008.12.	タンデムマス・スクリーニングでの短鎖3ヒドロキシアシルCoA脱水素酵素欠損症発見の問題点	畑 郁江	小児科学
Metabolism.58(1):48-54.2009.1.	Effects of bezafibrate on dyslipidemia with cholestasis in children with familial intrahepatic cholestasis-1 deficiency manifesting progressive familial intrahepatic cholestasis	塚原 宏一	小児科
Mol Genet Metab.96(2):77-79.2009.2.	A novel molecular aspect of Japanese patients with medium-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency (MCADD): c.449-452delCTGA is a common mutation in Japanese patients with MCADD	重松 陽介	小児科
Metabolism.58(3):278-282.2009.3.	Evaluation of endogenous nitric oxide synthesis in congenital urea cycle enzyme defects	塚原 宏一	小児科
Psychoneuroendocrinology.33(3):305-312.2008.4.	Associations between trait anxiety, insulin resistance, and atherosclerosis in the elderly: A pilot cross-sectional study	和田 有司	精神医学
Bipolar Disord.10(3):360-368.2008.5.	Neuroprotective effect of chronic lithium treatment against hypoxia in specific brain regions with upregulation of cAMP response element binding protein and brain-derived neurotrophic factor but not nerve growth factor: comparison with acute lithium treatment	小俣 直人	精神医学
Parkinsonism Relat Disord.14(6):513-516.2008.8.	Subcortical neurofibrillary tangles and argyrophilic grains in a case of familial frontotemporal dementia with parkinsonism	須藤 哲	精神医学
Psychiatry Res.171(3):177-188.2009.3.	Application of a multifractal analysis to study brain white matter abnormalities of schizophrenia on T2-weighted magnetic resonance imaging	高橋 哲也	精神医学
Clin Neurophysiol.120(3):476-483.2009.3.	Age-related variation in EEG complexity to photic stimulation: a multiscale entropy analysis.	高橋 哲也	精神医学
日本皮膚外科学会誌.12(1):56-57.2008.5.	再発を繰り返した下口唇の血管拡張性肉芽腫の1例	川見 健也	皮膚科学
日本皮膚科学会雑誌.118(7):1227-1232.2008.6.	乳房外Paget病	清原 隆宏	皮膚科学
Contact Dermatitis.59(2):117-118.2008.8.	Pigmented contact cheilitis from dipentaerythritol fatty acid ester	井戸 敏子	皮膚科
日本褥瘡学会誌.10(4):536-541.2008.10.	脊柱管狭窄症の治療を契機に治癒に向かった仙骨部褥瘡の1例	安田 聖人	皮膚科
Visual Dermatology.7(12):1381-1382.2008.12.	CPC 074	清原 隆宏	皮膚科学
日本皮膚科学会雑誌.118(13):2858-2861.2008.12.	皮膚間葉系悪性腫瘍Up-to-date	清原 隆宏	皮膚科学
Journal of Magnetic Resonance Imaging.27(6):1302-1308.2008.6.	Apparent Diffusion Coefficient in Pancreatic Cancer: Characterization and Histopathological Correlations	村岡 紀昭	放射線科
Clinical Imaging.32(4):251-258.2008.7.	Tissue characterization of glioma by proton magnetic resonance spectroscopy and perfusion-weighted magnetic resonance imaging: glioma grading and histological correlation	豊岡 麻理子	放射線科
Mol Imaging Biol.10(3):162-166.2008.5.	Reproducibility of Semi-quantitative Parameters in FDG-PET Using Two Different PET Scanners: Influence of Attenuation Correction Method and Examination Interval	上林 倫史	放射線科
Radiation Medicine.26(5):278-286.2008.6.	Operation of bolus tracking system for prediction of aortic peak enhancement at multidetector row computed tomography	山口 功	放射線部

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Roentgenol.190(6):W365-W369.2008,6.	18F-FDG PET of common enhancing malignant brain tumors	小坂 信之	放射線科
Radiology.248(2):599-605.2008,8.	Uterine tumors: Pathophysiologic imaging with 16 α -[18F]fluoro-17 β -estradiol and FDG-PET - Initial experience	辻川哲也	放射線科
臨床放射線.53(10):1238-1243.2008,10.	子宮腫瘍性疾患におけるエストロゲン受容体とブドウ糖代謝の関連	辻川哲也	放射線科
Computerized medical imaging and graphics.33(1):23-28.2008,11.	Evaluation of required saline volume in dynamic contrast-enhanced computed tomography using saline flush technique	山口 功	放射線部
日本放射線技術学会雑誌.64(10):1513-1521.2008,12.	3.0T MRIを用いた高速FLAIR法におけるCSF artifactの抑制について	藤原康彦	放射線部
癌の臨床.54(5):337-342.2008,5.	胃癌腹腔播種に対するS-1併用Docetaxel腹腔内投与の効果	廣野 靖夫	消化器外科
胆膵の生理機能.24(1):15-18.2008,6.	FDG-PETを用いた膵癌診断の検討	村上 真	消化器外科
J Vasc Surg.48(6):1566-1574.2008,12.	Adventitial delivery of platelet-derived endothelial cell growth factor gene prevented intimal hyperplasia of vein graft	半田充輝	心臓血管外科
Neurosci Lett.435(1):1-6.2008,4.	Target muscles for retrograde gene delivery to specific spinal cord segments	中嶋 秀明	整形外科
Spine.33(9):1034-1041.2008,4.	Surgical results and related factors for ossification of posterior longitudinal ligament of the thoracic spine: a multi-institutional retrospective study	内田 研造	整形外科・脊椎外科
Clin Rheumatol.27(5):597-604.2008,5.	Calcium pyrophosphate crystal deposition in the ligamentum flavum of degenerated lumbar spine: histopathological and immunohistological findings	彌山 峰史	整形外科
J Neurosci Res.86(8):1789-1800.2008,6.	Adenovirus-mediated retrograde transfer of neurotrophin-3 gene enhances survival of anterior horn neurons of twy/twy mice with chronic mechanical compression of the spinal cord	中嶋 秀明	整形外科
Clin Exp Rheumatol.26(4):534-541.2008,7.	Effect of osmolarity on glycosaminoglycan production and cell metabolism of articular chondrocyte under three-dimensional culture system	根来 航平	整形外科
J Neurosurg Spine.9(3):285-295.2008,9.	Herniated and spondylotic intervertebral discs of the human cervical spine: histological and immunohistological findings in 500 en bloc surgical samples	小久保 安朗	整形外科
Spine.33(24):2648-2650.2008,11.	Radiographic predictors for the development of myelopathy in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament: a multicenter cohort study	馬場 久敏	整形外科
Spine.33(24):2596-2604.2008,11.	Gene expression profiles of neurotrophic factors in rat cultured spinal cord cells under cyclic tensile stress	馬場 久敏	整形外科
Neuropathology.28:127-131.2008,4.	CD98 immunoreactivity in multinucleated giant cells of glioblastomas: An immunohistochemical double labeling study	竹内 浩明	脳脊髄神経外科学
Int J Mol Med.21(5):585-592.2008,4.	Thermosensitization by parthenolide in human lung adenocarcinoma A549 cells and p53- and hsp72-independent apoptosis induction via the nuclear factor- κ B signal pathway	北井 隆平	脳脊髄神経外科
J Neurooncol.88(2):143-155.2008,6.	Expression of vascular endothelial growth factor-A and mRNA stability factor HuR in human meningiomas	久保田 紀彦	脳脊髄神経外科学
J Neuro-oncol.91(1):33-38.2008,10.	Chromosome 1p and 19q Deletions in Malignant Glioneuronal Tumors with Oligodendroglioma-like component	竹内 浩明	脳脊髄神経外科学
Neuropathology.29(4):379-388.2008,11.	Prognostic significance of the immunohistochemical expression of O-methylguanine-DNA methyltransferase, P-glycoprotein, and multidrug resistance protein-1 in glioblastomas	中川 敬夫	脳脊髄神経外科学
Neuropathology.28(6):604-611.2008,12.	Expression of vascular endothelial growth factor-A and mRNA stability factor HuR in human astrocytic tumors	久保田 紀彦	脳脊髄神経外科学
Anesthesiology.108(5):841-850.2008,5.	Anesthesia depth-dependent features of electroencephalographic bicoherence spectrum during sevoflurane anesthesia	林 和子	麻酔科蘇生科
麻酔.57(9):1157-1159.2008,9.	経尿道的前立腺切除術(TUR-P)の術後テネスマスに対するフェンタニル持続静脈内投与の有効性の検討	重見 研司	麻酔・蘇生学
Br J Anaesth.101(5):666-672.2008,11.	Hyperventilation-induced hypocapnia changes the pattern of electroencephalographic bicoherence growth during sevoflurane anaesthesia	林 和子	麻酔科蘇生科

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Anaesth.25(12):1032-1033.2008,12.	General anaesthesia and TrkA mRNA in peripheral blood mononuclear cells	次田 佳代	麻酔科蘇生科
J Nucl Med.49(5):708-712.2008,5.	Comparison of 18F-FDG PET and MRI in assessment of uterine smooth muscle tumors	吉田 好雄	産科婦人科学
Int J Clin Oncol.13(2):173-175.2008,5.	A malignant solitary fibrous tumor in the retroperitoneum	伊藤 秀明	泌尿器科学
泌尿紀要.54(6):449-452.2008,6.	前立腺肥大に症に伴う過活動膀胱に関する臨床的・基礎的研究	秋野 裕信	泌尿器科学
Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol.295(2):R714-R718.2008,6.	Long-lasting breaches in the bladder epithelium lead to storage dysfunction with increase in bladder PGE2 levels in the rat	青木 芳隆	泌尿器科学
Urology.72(3):552-555.2008,9.	Association between lower urinary tract symptoms and serum levels of sex hormones in men.	三輪 吉司	泌尿器科
Urology.72(4):817-820.2008,10.	Ultrasound-estimated bladder weight predicts risk of surgery for benign prostatic hyperplasia in men using alpha-adrenoceptor blocker for LUTS.	秋野 裕信	泌尿器科学
BJU Int.102(9):1168-1174.2008,11.	Spontaneous contractions of the pig urinary bladder: the effect of ATP-sensitive potassium channels and the role of the mucosa.	秋野 裕信	泌尿器科学
Brain Research.1233:63-78.2008,7.	Peroxiredoxin 6 delivery attenuates TNF-alpha-and glutamate-induced retinal ganglion cell death by limiting ROS levels and maintaining Ca(2+) homeostasis	久保 江理	眼科学
Invest. Ophthalmol. Vis. Sci.49(7):3216-3223.2008,7.	Role of the Polyol Pathway in High Glucose-Induced Apoptosis of Retinal Pericytes and Proliferation of Endothelial Cells	高村 佳弘	眼科
Diabetes Res Clin Pract.82(1):18-24.2008,10.	Attenuation of aldose reductase gene suppresses high-glucose-induced apoptosis and oxidative stress in rat lens epithelial cells	南部 浩隆	眼科
Eye.22(11):1442-1445.2008,11.	Detection of human papillomavirus in pterygium and conjunctival papilloma by hybrid capture II and PCR assays	高村 佳弘	眼科
J Hum Genet.53(7):615-621.2008,7.	Filaggrin null mutations are associated with atopic dermatitis and elevated levels of IgE in the Japanese population: a family and case-control study	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Allergol Int.57(3):265-275.2008,9.	A randomized double-blind comparative study of sublingual immunotherapy for cedar pollinosis	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Auris Nasus Larynx.35(4):587-591.2008,12.	Intramuscular hemangioma of masseter muscle with prominent formation of phleboliths: A case report	齋藤 寛	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Clinical and Experimental Allergy.38(12):1875-1881.2008,12.	Association of serum interleukin-33 level and the interleukin-33 genetic	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
J. Raman Spectrosc.39(5):655-660.2008,5.	Functional mapping of caries enamel of a human teeth with Raman microspectroscopy	佐野 和生	歯科口腔外科学
Spine.33(7):716-723.2008,4.	Synapse involvement of the dorsal horn in experimental lumbar nerve root compression: a light and electron microscopic study	小林 茂	リハビリテーション部
J Orthop Res.26(4):493-503.2008,4.	Effect of cell density on the rate of glycosaminoglycan accumulation by disc and cartilage cells in vitro	小林 茂	リハビリテーション部
J Neurosurg Spine.9(1):96-103.2008,7.	Fine structure of cartilage canal and vascular buds in the rabbit vertebral endplate	小林 茂	リハビリテーション部
J Orthop Res.26(11):1533-1540.2008,11.	Effects of arterial ischemia and venous congestion on the lumbar nerve root in dogs	小林 茂	リハビリテーション部
J Orthop Sci.14(1):24-34.2009,1.	Visualization of intraneural edema using gadolinium-enhanced magnetic resonance imaging of carpal tunnel syndrome	小林 茂	リハビリテーション部
Nephrolgy Dialysis Transplantation Plus.5(1):375-376.2008,10.	Rapid remission of minimal change disease with angiotensin II antagonist treatment in a type 1 diabetic patient with no diabetic nephropathy	高橋 直生	検査部
Nephrol Dial Transplant.23(10):3247-3255.2008,10.	Lysophospholipids induce the nucleation and extension of β 2-microglobulin-related amyloid fibrils at a neutral pH	高橋 直生	検査部
Biochem J.416(2):307-315.2008,12.	Growth of β 2-microglobulin-related amyloid fibrils by non-esterified fatty acids at a neutral pH	高橋 直生	検査部

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
東女医大誌.78(8-9):448-453.2008.9.	ラット胃潰瘍に対する各種薬剤の創傷治癒効果についての病理組織学的比較—胃潰瘍の内視鏡的止血術におけるフィブリン接着剤とbFGFの有効性の検証—	今村 好章	病理部
Journal of Applied Therapeutic Research.6(4):32-40.2008.4.	Population pharmacokinetics of teicoplanin in patients and simulation of trough concentrations after various initial loading doses	政田 幹夫	薬剤部
医療薬学.34(4):320-327.2008.4.	固形がん患者における抗がん剤の適正使用のための白血球数評価	政田 幹夫	薬剤部
Ann Pharmacother.43:453-458.2009.3.	Evaluation of potential interaction between vinorelbine and clarithromycin	政田 幹夫	薬剤部

計 4件

合計 104 件

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 山口 明夫				
管理担当者氏名	総務管理課長	辻谷 重宏	経営企画課長	國友 陵一	
	医療サービス課長	三上 隆美	医療情報部長	藤枝 重治	
	医療安全管理部長	井隼 彰夫	感染制御部長	岩崎 博道	
	薬剤部長	政田 幹夫	放射線部長	木村 浩彦	
	ME機器管理部長	山崎 幸直			

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線 写真, 紹介状, 退院した患者に係る 入院期間中の診療経過の要約及び入院 診療計画書		病院部医療サービス 課(病歴室), 薬剤部, 放射線部, 医療情報部	外来診療録は, 1患者1ファイル 入院診療録は, 1患者1入院 1ファイルで病歴室において 中央管理している。 電子診療録として, 1患者1ファ イルを医療情報部において管理 している。
----- 各科診療日誌		各診療科	
病院の管 理及び運 営に関す る諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課	
	高度の医療の提供の実績	病院部経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	病院部総務管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院部総務管理課	
	閲覧実績	病院部総務管理課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	病院部医療サービ ス課	
	入院患者数, 外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	病院部医療サービ ス課及び薬剤部	
規則第 9条の 23及 び第 1条の 11各 号に掲 げる 体制 確保の 状況	専任の医療に係る安全管 理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行 う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行 う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの 安全管理に係る相談に適切 に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のた めの指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のた めの委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のた めの職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故 報告等の医療に係る安全の 確保を目的とした改善のた めの方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME 機器管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器管理部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器管理部

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病 院 長 山 口 明 夫
閲覧担当者氏名	総務管理課長 辻谷 重宏
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	57.6 %	算定期間	平成20年 4月 1日～平成21年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		6,741 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		6,625 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,552 人
	D：初診の患者の数		19,262 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (3名) 兼任 (17名) ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善等の提案に関する事。 (2) オカレンスの収集、調査、分析及び防止策に関する事。 (3) オカレンスレポートで報告された医療上の事故について、影響レベルの判定に関する事。 (4) 医療上の事故防止に係る提言及び指導に関する事。 (5) 医療安全管理に関する教育、研修及び啓発に関する事。 (6) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確、かつ、十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行う事。 (7) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行う事。 (8) 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整及びリスクマネージャー会議の運営に関する事。 (9) その他医療の安全管理に関する事。 	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方針に関する基本方針 (5) 医療上の事故発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針(患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。) (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理の指針に関する事。 (2) 医療安全管理の対策及び改善に関する事。 (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関する事。 (4) その他医療安全管理の重要事項に関する事。 	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 12回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 全職員を対象に、平成20年5月12日に院内講師及び外部講師による「人とパソコンの感染対策と医薬品の安全管理」の研修を行った。</p> <p>(2) 全職員を対象に、平成20年6月20日に静岡県立がんセンターから講師を招聘し「感染対策と医療機器の安全管理」の研修を行った。</p> <p>(3) 全職員を対象に、平成20年6月25日に院内講師による「救急蘇生最前線」の研修を行った。</p> <p>(4) 全職員を対象に、平成20年10月22日に日本大学医学部から講師を招聘し「病院機能評価とISOマネジメントの融合」の研修を行った。</p> <p>(5) 全職員を対象に、平成20年10月30日に院内講師による「中心静脈カテーテル管理ガイドライン」及び「CVC 刺入部のケアとルート固定方法」の研修を行った。</p> <p>(6) 全職員を対象に、平成20年11月12日にテルモ株式会社甲府東工場から講師を招聘し「5Sの取り組みの背景と現状」の研修を行った。</p> <p>(7) 全職員を対象に、平成20年11月17日に院内講師及び広島大学大学院保健学研究科から講師を招聘し「緩和ケア医療と麻薬の安全な使用」の研修を行った。</p> <p>(8) 全職員を対象に、平成20年12月10日に医療法人社団相和会新横浜ソーワクリニック・横浜総合検診センターから講師を招聘し「医療事故、医療被害から何を学ぶか」の研修を行った。</p> <p>(9) 全職員を対象に、平成20年12月18日に院内講師による「摂食・嚥下障害の診断と治療」及び「摂食・嚥下障害リハビリテーションの実際」の研修を行った。</p> <p>(10) 全職員を対象に、平成21年2月3日に名古屋市立大学大学院臨床病態外科学より講師を招聘し「安全なCVカテーテルの挿入と管理」の研修を行った。</p> <p>(11) 全職員を対象に、平成21年2月5日に大阪大学コミュニケーションデザインセンターより講師を招聘し「コンフリクトマネジメント、医療メデイエーション」の研修を行った。</p> <p>(12) 全職員を対象に、平成21年3月3日に院内講師による「平成20年度の医療安全と感染制御」の研修を行った。</p>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/>) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○オカレンスレポートは医療安全管理部に報告され、GRMと部員が日々モニタリングを行い、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、医療安全管理部長より文書で提出を依頼し、医療安全管理部で内容を確認している。</p> <p>○医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。</p> <p>○医療安全管理部員が毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。</p> <p>○医療安全推進月間時に部署間相互チェックを実施している。</p>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊦ ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内感染対策に関する基本的考え方 (2) 院内感染対策に関する管理体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内感染対策指針に関すること。 (2) 感染予防対策の確立に関すること。 (3) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 (4) 感染源の調査に関すること。 (5) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。 (6) その他感染対策についての重要事項に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 全職員を対象に、平成20年5月24日に院内講師及び国立病院機構大阪医療センターから講師を招聘し「HIV 診療における外来チーム医療」の研修を行った。 (2) 全職員を対象に、平成20年9月18日に東邦大学医学部から講師を招聘し「耐性菌感染症における最近の話題 -耐性メカニズムから院内感染対策まで-」の研修を行った。 (3) 全職員を対象に、平成20年11月10日に神戸大学医学部から講師を招聘し「抗菌薬の考え方、使い方」の研修を行った。 (3) 主に医師・看護師等の医療従事者を対象に、平成21年1月26日に群馬大学大学院医学系研究科から講師を招聘し「緑膿菌耐性の新知見と感染対策について」の研修を行った。 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内における発生状況の報告等の整備 (㊦ ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○感染症発生状況は感染制御部に報告され、感染管理看護師長と部員が日々モニタリングを行い、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で提出を依頼し、部会で内容を確認している。 ○感染制御部員が定期的実施部署を決め、ラウンドを実施している。 ○各部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実践している。 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○市販後調査と育葉・副作用報告の活用事例 ○内服薬経管注入のための簡易懸濁法 ○薬害に関する講演会 ○デュロテップMTパッチオーダー時の注意 ○オカレンス事例に学ぶアレルギー登録について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有 無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 週1回、医療安全管理部と合同でミーティング実施と安全パトロールによる医薬品の安全使用の確認 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医薬品による副作用発現時の対応についてのマニュアルを作成し、副作用症例の収集を行っている。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○人工呼吸器：研修医、新人看護師への取扱説明（4月～11月にかけて全対象者へ） 各部署における指定機種ごとの取扱方法の研修（年4回） ○輸液ポンプ・シリンジポンプ：取扱説明、安全情報提供（医療安全研修 年1回） ○その他、新規導入医療機器：扱う各部署スタッフへの説明（新規導入機種ごと） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○人工呼吸器：添付文書、取扱説明書の内容に基づく点検（機種ごとに設定） 使用済み返却後の目視点検（1患者使用後ごと）、定期点検（2ヶ月に1回） ○輸液ポンプ：バッテリー確認、流量精度、点検表に基づく点検（年1回） 使用済み返却後の目視点検（1患者使用後ごと）、定期点検（年1回） ○シリンジポンプ：バッテリー確認、流量精度、点検表に基づく点検（年1回） 使用済み返却後の目視点検（1患者使用後ごと）、定期点検（年1回） ○麻酔器：点検表による始業点検、メーカー点検（年1回）、定期点検（年1回） ○体外循環装置：バッテリー確認、取扱説明書の内容に基づく（年1回） 定期点検（6ヶ月に1回） ○透析装置：メーカー点検（年1回）、始業点検（使用後ごと）、定期点検（2週間に1回） 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ME機器管理部による中央管理、点検整備 ○医療機器安全管理委員会の設置 ○医療機器安全情報担当者の配置 ○添付文書の共有化 	